

CGC 2026改訂:知的財産・無形資産ガバナンスの変革と「三位一体」開示

知財ガバナンスの「実質的格上げ」

成長投資の中核(新、原則4-1)

形式的な開示(旧)

- 補充原則から「原則4-1(成長投資)」への統合
知財は下位の開示要請から、取締役会が議論すべき「経営資源配分の中核項目」へと昇華しました。
- 「経済的な堀(Economic Moat)」の構築
保有件数の報告ではなく、投資がどう参入障壁を築き収益化されるかの「価値創造ストーリー」が重視されます。
- 管理中心から「投資検証」への転換
取締役会は、知財投資が資本コストを上回るリターン(ROIC)を生むか不断に検証する責任を負います。

三位一体開示モデルと報告書の役割

有価証券報告書
(総会前提出加速)



主な役割・視点:
厳格なファクトとリスク

過去の投資実績、
技術流出・経済安保等の
防衛側面のリスク

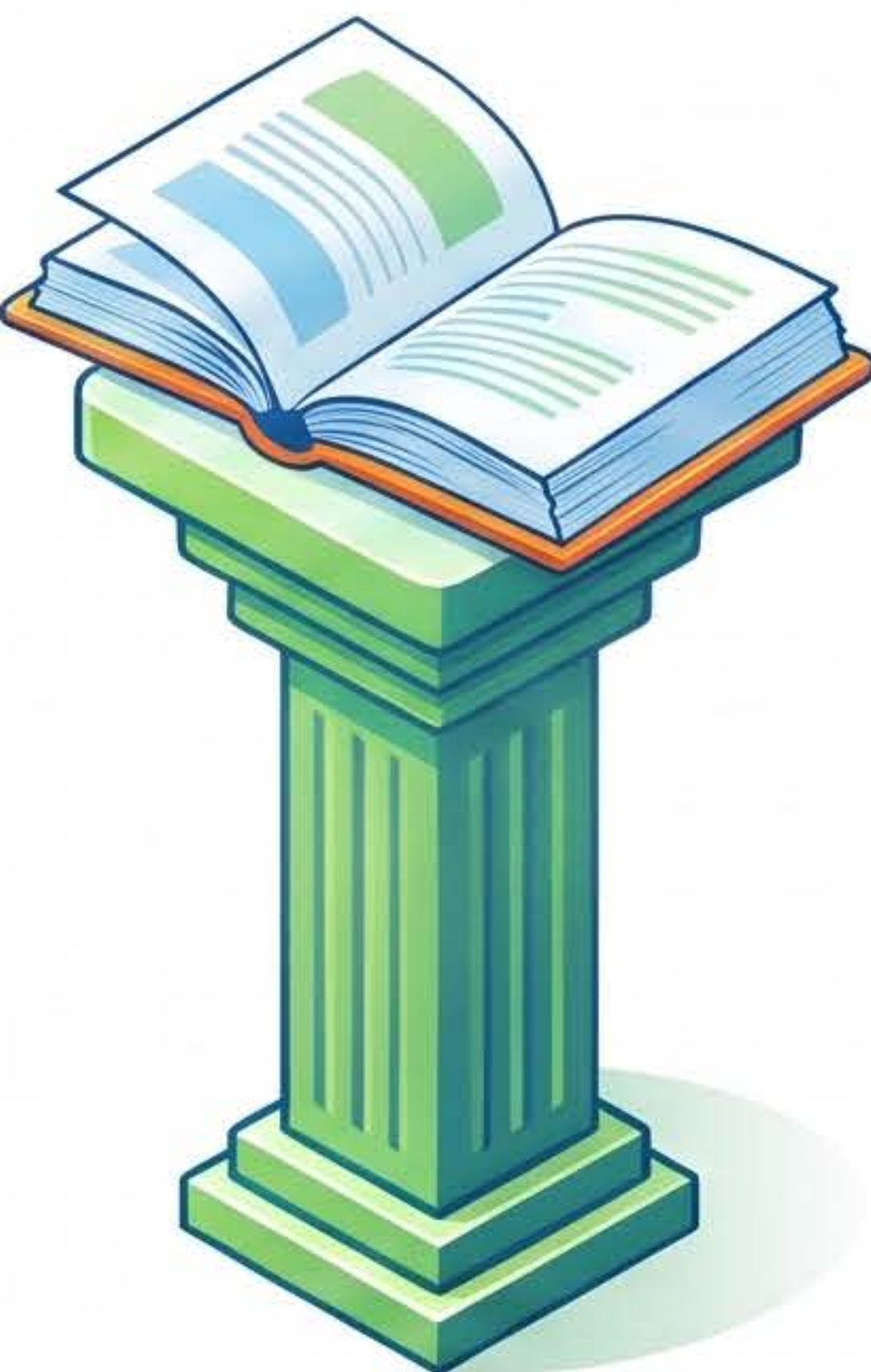
CG報告書



主な役割・視点:
意思決定の論理の証明

資本コストに基づいた
成長投資の配分方針、
ポートフォリオ見直し基準

統合報告書



主な役割・視点:
納得と共感のストーリー

人的資本から知財創出、
収益化に至る「因果バス」の
定性・定量説明